



ふれあい 放水路

2005
(平成17年)
第140号
11月



▲立久恵峡の紅葉

あでやかな秋景色

山々の景色も色づき、日に日に秋の深まりを感じる今日、神戸川流域の渓谷もきれいな紅葉に染まりました。

ここ立久恵峡は、清流にそびえ立つ奇岩、怪石で県立自然公園に指定されている所で、四季折々の景観が楽しめる風光明媚な観光スポットとして、県内外から多くの観光客が訪れる名所です。

四季の中でも、とりわけ秋の紅葉の風景は格別で、赤や黄色に色づいた木々が、岩山を染める様は絶景です。また夜になると辺りはライトアップされ、せり出した岩肌とあでやかな紅葉の色合いとが闇夜に浮かび、昼間とはまた違った表情を見せてくれます。

日を追うごとに色味を変え、見事に色づいていく紅葉の風景。そのあでやかな秋景色は見る人の心を魅了してやみません。

開削部掘削工事の概要について

斐伊川放水路事業において、開削部の掘削工事は平成8年の工事着手以来、皆様方のご協力により、今年で10年目を迎えます。
今月は、開削部の掘削工事の進捗状況等を紹介します。

進む開削部掘削工事

開削部では、掘削する土砂が約900万m³あります。これを10tダンプトラックに換算すると、およそ180万台分の量に相当します。そのため現場では、大型のダンプトラックで作業しています。これに合わせて掘削や積み込みを行う機械も大型建設機械を使用しています。
これらの大型建設機械の活躍により開削部の工事は順調に進んでいます。



写真のダンプトラックは、10tダンプトラックの約5倍の土砂を一度に運ぶことができます。このダンプトラックに土砂を積み込んでいるバックホウは、10tダンプトラックの荷台がいっぱいになるほどの量を一度に積み込むことができます。後ろに見えているブルドーザ【本誌第136号参照】は、重量が約100tもあります。
(※機械の大きさに関しては、本誌第91号をご覧ください。)

現在までの進捗状況

開削部の掘削工事は、平成8年度の開始以来、平成16年度までに約半分の450万m³を掘削しました。これは、出雲ドームの容積に換算するとおよそ9個分に相当する量です。これら掘削した土砂は、グリーンステップを造成するために運搬されています。

平成17年度は、開削部の上流側を中心に約30万m³を掘削しています。今後も開削部、神戸川の拡幅部もあわせて工事は続きますので、現場周辺をお通りの際、お気付きの点があればお知らせ下さい。引き続き、みなさまのご協力をお願いします。



岩盤検査の方法について

岩盤検査とは、岩盤の硬さを正確に判定し、掘削機械の選定等、掘削を効率的に進めるために行うものです

開削部において、山を切り開く際、土砂をバックホウやブルドーザで掘削していくと、硬い岩盤が出てきます。岩盤は主に、ブルドーザのリッパ【本誌第136号参照】で掘削出来るものを[軟岩]、リッパでは掘削出来ず、火薬による発破や油圧ブレーカと呼ばれる削岩機を使って掘削するものを[硬岩]と分類しています。岩盤検査では、軟岩・硬岩をさらに細かく区分して判定します。



① 掘削に伴い、硬い岩盤が出てくると、今まで使用していた建設機械では掘削することが出来なくなります。



② 風化や節理(岩石中に見られる規則正しい割れ目)の状態などを確認します。



③ 岩盤の硬さを、※シュミットロックハンマーという機械を使って判定します。(※内蔵されているハンマーがパネの力で岩盤を打撃し、その反発力で岩盤の強度を推定する機械です。)



④ 測量を行い、岩盤の硬さを判定した位置を図面に記載し、今後の掘削際の資料とします。

～けんせつ豆知識～



バックホウは、アームの先端についているバケット(左上写真参照)を取り替えることによって色々な作業に使用することができます。

普段は、土砂を掘削したり、掻き込んだりする作業を行っていますが、硬い岩盤のある開削部ではバケットを油圧ブレーカに取り替えて硬い岩盤を砕くことに用います。

ふれあい放水路

通信

土曜の日イベント

しまね建設技術展 2005 開催

十一月三、四日の両日、浜田市の島根県立体育館で「しまね建設技術展2005」を開催しました。このイベントは、国土交通省が土曜の日（十一月十八日）にちなんで毎年開催しているもので、七回目を数える今年も島根県西部で初の開催となりました。

会場の体育館には五〇を超える土木、建設関連の企業・団体が集結し、それぞれの取り組みや新技術を紹介しました。国土交通省のブースでは、「環境との共生」をテーマにした治水事業の概要説明やパネル・模型等を展示した他、パソコンを使っているクイズコーナー等がみなさんの関心を集めていました。会場では他にも、子供に人気のキャラクターショーや石見神楽の上演、特産品の販売などが行われ、両日合わせておよそ三四〇〇人が訪れ、多くの来場者で賑わいました。



▲パネル展示コーナー



▲クイズコーナー

斐伊川放水路

現地見学会開催

十一月十二日、出雲河川事務所では「斐伊川放水路親子見学会」を開催しました。

天候にも恵まれたこの日、集まった二十組四〇名の親子連れのみなさんとともに、放水路ふれあいセンターや、現在、改築の進む神戸堰などの工事現場を回りました。

開削部では、大型の建設機械にふれてもらいました。機械の上に乗った子供たちはその大きさに驚いた様子で、皆が目を輝かせていました。



▲開削部にて記念撮影



指導員の説明を受けながら、慎重に上まで上ってもらいました。

写真募集のお知らせ

身近な風景や季節の風物詩、神戸川などに関連する写真をお送り下さい。また、その写真に簡単な説明を添えていただけると喜びます。お送り頂いた写真は本誌「ふれあい放水路」の表紙等に使用させていただきます。

なお、写真をご提供頂いた方には記念品を贈呈いたします。

みなさまからのご協力をお待ちしております。

※写真は返却いたしません

*お問い合わせ・送付先

国土交通省出雲河川事務所
 工務課へ担当/事業対策官
 Tel 0853(21)1850



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5丁目1番地
 ☎(0853)21-1850

メールアドレス E-mail: izumo@info.cgr.mlit.go.jp
 ホームページ http://www.izumokasen-mlit.go.jp/

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先: ふれあい放水路担当
 放水路推進室 事業対策官